

# 令和4年度第1回「北海道森林審議会」議事概要

## 1. 日時及び場所

令和4年8月9日(火)13:30~15:00

第二水産ビル4階4S会議室(オンライン併用)

## 2. 出席者

【委員】小泉会長 / 有末委員 / 兼子委員 / 北村委員 / 中田委員 / 前田委員  
/ 松永委員 / 山口加津子委員 / 山口信夫委員(委員9名出席)

【道側】山口水産林務部長 / 黒澤水産林務部次長 / 野村林務局長 / 寺田森林環境局長 / 加納森林計画担当局長 / 関係課長ほか(道側15名出席)

## 3. 議事

### (1) 今後の林務施策の展開方向について

令和4年度の林務施策の展開方向のほか、「北海道森林づくり基本計画」「道有林基本計画」の推進管理について審議。

#### 【委員の主な発言】

- ・ 今後、造林面積を増やすことを目指しているが、担い手は減少している。目標の造林面積を確保するため、造林の効率化についても指標を検討すべき。
- ・ 低密度植栽や大型機械による地拵えの推進、天然更新を活かした森林づくりなど、造林コストを下げるべき。
- ・ 林業分野における外国人技能実習制度の活用など担い手対策を進めるべき。
- ・ 素材の生産性を向上させるほか、路網の維持管理を適切に行い、原木の安定供給体制の構築を図るとともに、人工林の大径材の有効利用を進めるべき。
- ・ 道産木材の供給量を増やすためには、伐採後の植林が重要なので、クリーンラーチなどの苗木を安定的に供給する必要がある。
- ・ 大手メーカーも一定程度道産木材を使いたい意向。建築材として道産木材を流通させるには、製材工場における乾燥材の生産能力を高めることが必要。また、試験研究機関と連携して、トドマツの乾燥や木取りなど製材技術の向上を図るべき。
- ・ 乾燥材の生産には、工場端材等を活用した木質バイオマスボイラーがコスト的には有利であることを踏まえて、生産体制について検討すべき。
- ・ 森林環境譲与税を活用し、路網の整備や下刈りなどを進めていきたい。
- ・ 木育について、イベントの実施回数などは増加しているが、森林づくりや林業に対する理解は不十分であることから、担い手確保に向けても、企業などと連携して冊子を配付するなど取組の強化が必要。
- ・ 広葉樹資源は、安定供給が難しいので、資源量に応じた利用を進めるとともに、シラカンバなど早生樹の活用について検討を進めるべき。

### (2) 報告事項

#### ① 北海道森林審議会林地保全部会からの報告について

北海道森林審議会林地保全部会の諮問案件及び令和3年度における諮問基準に該当しない林地開発行為の許可処分状況等を報告。

#### 【委員の主な発言】

(特になし)